

2017年3月、アメリカ穀物協会は6年目となるトウモロコシ輸出貨物品質レポートを公表しました。このレポートは2016/2017年の輸出貨物サンプル全体の平均値が、すべての等級要件について全米No. 2等級以上の格付けに相当していたことを示しています。全米平均の品質要件についての調査結果の要点は以下の通りです：

### 輸出貨物の等級要件と水分

- 容積重の平均(57.4ポンド/ブッシェル、73.8キログラム/ヘクトリットル)は2015/2016年より高かった。約97%のサンプルは米国No. 1等級の下限以上であり、一般的に品質が良かったことを示している。
- 破損粒と異物(BCFM)は2015/2016年より若干低かった(2.9%)が、過去5年平均と同じであった。約63%のサンプルが米国No.2等級の上限を下回っていた。BCFMは、収穫地から輸出地点までの間に0.7%から2.9%に、市場流通により上昇したと推測される。
- 全損傷の平均値は2015/2016年より高かった(2.7%)。しかし、それでも大部分(96.7%)のサンプルは米国No. 2等級の上限以下であった。
- 熱損傷は無視できる程度で、トウモロコシの市場流通全体を通じた乾燥と保存が良好に管理されたことを示している。
- 平均水分含量(14.3%)は2015/2016年と過去5年平均より若干低かった。

### 輸出貨物の化学組成

- 平均たんぱく質濃度(乾物ベースで8.6%)は2015/2016年より高かったが、2014/2015年と過去5年平均、2016年収穫時の平均と同じであった。
- 平均デンプン濃度(乾物ベースで72.4%)は、2015/2016年、2014/2015年、過去5年平均より低かった。
- 平均油分濃度(乾物ベースで4.0%)は、2015/2016年、2014/2015年、過去5年平均より高かった。

### 輸出貨物物理ファクター

- ストレスクラックの平均値(5%)は、2015/2016年、2014/2015年、過去5年平均より低かった。輸出時サンプルの大部分(94.4%)はストレスクラックが15%未満であり、これは取り扱い中の低い破損率によるものに違いない。



- ストレスクラック指数の平均値(11.6)は、2015/2016年、2014/2015年、過去5年平均より低かった。この低いレベルは、収穫時の農場での優れた乾燥条件と市場流通を通して人工乾燥がほとんど不要であったことによるものと思われる。
- 平均の百粒重(35.26グラム)は、2015/2016年より高かったが、過去5年平均より若干低かった。
- 平均の穀粒容量(0.27立方センチメートル)は、2015/2016年、過去5年平均と同じであった。
- 平均の真の穀粒密度(1.285グラム/立方センチメートル)は、2015/2016年より高かったが、過去5年平均と似た値であった。
- 平均の全穀粒(88.2%)は、2015/2016年より低かったが、過去5年平均と近い値であった。
- 平均の硬胚乳(79%)は、2015/2016年、2014/2015年、過去5年平均より低かった。これは、2016/2017年産のトウモロコシが近年のトウモロコシより柔らかいことを示している。

## 輸出貨物のマイコトキシン

- 試験したすべての輸出サンプルの結果について、米国食品医薬品局(FDA)のアフラトキシン規制レベル(20ppb)より低かった。検出レベルのアフラトキシンを持たない輸出サンプルの割合は、2015/2016年、2014/2015年より低かった。
- 試験したすべての輸出サンプルの結果について、米国食品医薬品局(FDA)の勧告レベル(5ppm)のDON(デオキシニバレノール、ボミトキシン)未満であった。しかし、米国農務省(USDA)連邦穀物検査局(FGIS)による「Lower Conformance Level」以上のレベルのDONを持つサンプルの数は、2016/2017年は2015/2016年、2014/2015年より多かった。

## フルレポート

これらの結果とサンプルの試験法のより詳細についてはフルレポートにより紹介しています。こちらのリンク(<http://grainsjp.org/topics/4774/>)にてご覧ください。